

体育学科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)										
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
天理スポーツ学[リーダーシップとスポーツ倫理を含む]	講義	1	2	天理スポーツは、中山正善によって設立された体育学部の礎と考えることができる。また我々が守るべき伝統でもある。天理スポーツの成り立ち、伝統、現状を知ることと同時に、スポーツマンとしてあるべき姿を理解し、将来の望まれる指導者としての資質を身につける。	各担当者からの話を十分に理解し、毎回の授業についてレポートを提出する。天理スポーツの成り立ち、伝統、現状を知ることを通じて、本学で体育・スポーツを学ぶことの意義、スポーツすることの意味を理解し、望ましいスポーツマンとしての行動力を身につける。	◎				○	○
スポーツ学概論	講義	1	2	本授業は、さまざまなスポーツ学への導入を果たす入門講義としての役割を担っている。体育学を学ぶ学生として、スポーツや運動の基礎・基本的理解(知識と実践)を目的としている。	自ら体験している専門競技(スポーツ)やからだを動かす(運動)ことから得た「疑問」や「興味」について、スポーツ・身体運動の文化的側面と自然科学的側面からの学習を通して、さらなる専門領域への興味関心につながる基本的知識を習得する。	◎	○			○	
健康学概論	講義	1	2	私たちの健康をとりまく様々な領域の知識を広く身につける。そのために、授業においては、大学生の時期の具体的な健康課題・健康問題を通じて理解を深める。	健康になるためには睡眠・食事・運動が重要であることを理解し、自らの大学生活において実践したり、国や公共レベルで提供されているさまざまな健康サービスを知り、将来的に活用していく見通しをもてるようになる。	◎				○	○
武道学概論	講義	1	2	「武道」とは、日本固有の伝統文化が、「武技」から「武芸」へ、そして「武道」への変容と定着の様相を歴史的に概観するとともに、外国の格闘技との比較によって、現代武道の特徴を理解し、今後の武道のあり方考える視点や材料を提供する。	スポーツ競技として成立している現代武道にも、自己を高め、他の人と協調し、社会の発展に寄与するべきだとする伝統的思想を含んでいるという知識を学び、武道に内包する様々な問題を解決していく視点や能力を身につけ、武道実践や指導の方向づけができる。	◎				○	○
体育・スポーツ原論(体育原理、学校体育史を含む)	講義	1	2	体育・スポーツ原論では、近代日本の学校体育史の理解と体育・スポーツの意味や価値について学ぶ。また、体育・スポーツを巡る諸問題に対応していくためにも、まずもって意識的に考える手法の習得、および多面的な思考と問題へのアプローチの方法についても習得させる。	学校体育史の理解を基盤に、現代までの体育の意味づけと役割について学習する。また、現代の体育・スポーツについて、様々な視点から意識的に考えることを理解した上で、体育・スポーツとは何か、またなぜ必要なのか、さらにはその価値について考えることができる。	◎				○	○
スポーツデータサイエンス	講義	1	2	データサイエンスの概念の理解と現代のスポーツ・体育におけるデータサイエンスの意義および価値について学ぶ。また、様々な場面で活用されている事例を通じて、広範なデータサイエンスの活用の可能性について理解する。なお、データを活用する際のプロセスについての理解も併せて深めていく。	近年のスポーツ・体育領域におけるIoTや画像分析の活用を踏まえ、スポーツに関連する統計およびビッグデータの収集の仕方や分析能力が求められている。学校教育でのICT教育の充実も目指されており、体育学部の必修科目として学ぶことで、将来的に様々な分野で活用していくための基本的知識を習得する。	◎	○	○			
スポーツ運動学(運動方法学を含む)	講義	1	2	スポーツや運動を行う際の、「動く感じ」に着目し、生身の人間がどのようにして運動学習をしているのかについて学習する。また自分と異なる動感を持つ他者に対して、どのようなことに留意しながら運動指導を行っていくかについて学習する。	自然科学的な知識だけでは説明できない人間の運動をする際の意識や感覚に対してどのように向き合っていくのかを真剣に考えられるようになる。他者への運動共感やその方法について理解できる。	◎	○			○	
解剖学	講義	1	2	ヒトの健康は、身体の様々な器官が活動し成り立っている。また、体育、スポーツの際にも、運動器を始めとした身体の様々な器官が連携して活動している。スポーツ活動を理解する上で必要な運動器の解剖を中心に、人体解剖学の基礎知識を修得することを目的とする。	頭部、頸部、背部、腰部、胸部、腹部、骨盤、上肢、下肢の骨・関節・骨格筋・血管の局所解剖を理解する。視聴覚教材や解剖モデルを用い解剖学的名称を3次的に学び、その局在、機能、関節の動き方などについて要点を体得する。	◎	○	○			
体力学(体力診断の理論と体力測定法を含む)	講義	1	2	スポーツや運動の源なる行動体力について、各体力要素とその働き、加齢に伴う変化、健康関連体力、体力診断法と評価について学習する。発育発達・老化に伴う体力変化を理解し、トレーニングの効果について学習する。	生きていくうえで必要な体力について、特に身体的側面の行動能力面について専門的な知識を習得し、体力測定やトレーニング指導に役立てる能力を身につける。専門家として、スポーツや運動指導に役立てる理論を学ぶとともに、効果的な指導の判断ができるようになる。	◎	○			○	
生理学(運動生理学を含む)	講義	1	2	植物性機能と動物性機能とに大別される生体の機能のうち、植物性機能、とりわけ、「体液」・「血液」・「代謝」・「呼吸」・「循環」・「内分泌」などについての知識を得て、生体機能に対する運動の影響や運動による生体機能の変化を理解できるようにする。	生理学(運動生理学を含む)では、生体の様々な仕組みと機能について体系的に学び、運動理論や運動に伴う生態機能の変化についての理解を深める。また、スポーツ各分野におけるトレーニング効果の更なる向上や健康の維持・増進に役立つような知識を習得する。	◎	○				
スポーツ生理学	講義	2	2	運動刺激に対する生理応答やトレーニングに対する適応について理解する。また、運動に対する生理学的機序をスポーツ現場で応用するべく、科学的根拠に基づいたスポーツ指導方法について学習する。	スポーツ生理学の理論について、自身のスポーツ競技に置換して理解するとともに、スポーツ生理学を応用したスポーツ指導方法を身につける。	◎	○				
スポーツ心理学	講義	2	2	スポーツ心理学を「競技スポーツ」と「健康スポーツ」「体育」の3つの側面から捉え、必要とされる心理的スキルや心理的要因について理解を深めると共に、スポーツ心理学の理論を基に、現場への介入指導の方法を学ぶ。	スポーツ心理学の理論を、これまでのスポーツ経験と結び付けながら、科学的な根拠に基づいて理解することができるとともに、体育・スポーツにおける合理的な練習方法や指導方法を身につける。	◎	○			○	

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)									
科 目 名		授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
スポーツ経営学		講義	2	2	体育・スポーツの普及や振興に携わるための経営的な視点を学び、保健体育教員または地域のスポーツ指導者として必要な応用力を学ばせる。また、将来の地域スポーツを支える人材の育成を目的とする。	スポーツ経営学を学習することにより、体育・スポーツの普及や振興に携わるための経営的なものの考え方を身につける。そのための理論と方法を学習し、応用力を身につける。また、普及や振興にとどまらず、ビジネスとしてのスポーツ経営についても学習する。	◎	○		○	
地域スポーツ論		講義	3	2	今日の日本における地域スポーツ振興策の柱である総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型地域SCとする)の創設・運営について学ぶ。その際、総合型地域SCのスポーツ振興上の意義と期待される役割を踏まえ、クラブの組織運営および事業展開等について、理解を深める。	総合型地域SCのスポーツ振興上の意義と役割を理解することができる。、各自治体の事例から総合型地域SCの組織運営および事業展開等について、理解することができる。総合型地域SCの組織運営および事業展開等について、理論的に理解することができる。総合型地域SCの組織構築および事業創造に関わる基礎的力量を身につけることができる。	○	◎		○	
保健体育科指導法1		講義	2	2	教員の仕事や役割を理解するとともに学校教育計画の立案について学習する。また保健体育科教員として、「保健」と「体育」の単位時間計画を作成するための方策や学習指導要領の目標、指導内容の理解ならびに授業における指導と評価の在り方について学習する。	学校教育現場に即した保健体育科指導の基礎的知識を習得する。具体的には、保健体育科の目標、内容と単位時間計画、教材、学習資料などの作成手順および評価について学ぶことで、よい授業を立案することができる能力を身につける。	◎	○	○		
保健体育科指導法2		講義	3	2	「保健体育科指導法1」の授業内容を基盤に「体育」の単位時間計画の作成および授業の進め方を学習する。具体的には、「体育」の模擬授業と授業評価を通して、「よい体育授業」を実現するための授業計画作成と授業分析の手法について理解を深める。	模擬授業を通して、「体育」の授業づくりのための実践能力を高める。また授業評価活動を通して、授業分析を行う能力の向上を図り、効果的な練習を展開する能力や質の高い授業を考案できる能力を身につける。	○	○	◎		
アダプテッド・スポーツ論		講義	3	2	障害者スポーツは、障害を持ってもスポーツが楽しめるようルールの変更、人の理解や援助、施設や用具の工夫などを行うことで対象者に適応させたスポーツであることから、全ての人がスポーツを楽しむことができるよう、障害者についての知識と理解を深める。	授業を通じて、障害者スポーツの障害別・種目別の特徴を理解することができ、指導する能力を身につける。国内外で行われている障害者スポーツを理解し、誰もが楽しめるスポーツを創作する能力や態度を身につける。	◎		○		○
スポーツプログラミング(運動処方論及びメディカルチェックの基礎を含む)		講義	3	2	スポーツ・運動は、生活習慣病の予防・改善や体力の維持・向上に不可欠である。本授業では、有効かつ安全な運動・トレーニングを行うための基礎知識、ならびに、運動処方のためのプログラム作成に必要な知識や技術を習得することを目的とする。	運動プログラム作成に必要なとされるメディカルチェック、および、健康・体力に関連する身体運動や運動処方等の基礎に関する知識を習得し、さらに、目的別の運動・スポーツプログラムについての企画・立案の実習をおとして、それらが実行できるようになる。	○	◎		○	
学校保健(学校安全を含む)		講義	3・4	2	中学校・高等学校の保健体育教員の必修となっている本科目では、学齢期の子どもの健康・安全に対して学校教育はどのような役割をもち、しきみを果たしているのかを、教員となることを前提に理解する。	学校教育における学校保健の位置づけ・役割・具体的な活動、学校保健安全法の意義と内容、学校保健行政のしくみなどについて、自ら体験した学校生活に照らしながら理解し、将来的には、学んだ知識を自らの教員資質にする。	◎	○		○	
救急看護法		講義	3・4	2	学校教育現場、スポーツ指導時に遭遇する可能性のある内科的、外科的救急疾患についての基礎的知識を習得し、それら救急疾患に対する対応ならびに簡単な処置について理解することを目的とする。	内科的、外科的救急疾患の概要とその対応、処置について学ぶ。解剖モデルや視聴覚教材を用いて、スポーツ現場における適切な対応を理解する。特に、大学内に設置されているAEDなどの一次救命処置の要点を身に付け、責任感をもって対応できる人材となる。	◎	○	○		
健康・スポーツ統計学		講義	3・4	2	健康・スポーツ科学における実験、調査、測定等によって集められたデータを解析するために必要な統計的手法を理解し、論文の作成等で積極的に活用できるようになることを目的とする。	健康・スポーツ科学で実際に使われる統計的手法、確率、仮説検定、分散分析などの基本的な知識を理解できる。授業は講義・演習形式で進めることから、パソコンを用いた解析手法を身につけ、分析手法を適切に用いた解析ができるようになる。	◎			○	
パフォーマンス分析		講義	3	2	スポーツ・体育の実戦現場におけるデータの重要性を学び、その収集方法と分析方法について学ぶ。画像解析・分析などのデータの解釈の方法を様々なレベルのアスリートおよび生徒の評価、比較、分析に活用する方法を習得し、また、パフォーマンス改善や向上に向けた応用的なデータ活用方法を学ぶ。	画像分析の技術的發展に伴い、競技で多用されている状況を理解することができる。また、教育現場においてもGIGAスクール構想によりICT化が進み、タブレット端末を活用したアクティブラーニングも実施されている。パフォーマンス分析の手法と解析、さらには問題発見から改善への段階的的手法を理解し、応用できるようになる。	○	◎	○		
体育学演習1		演習	3	2	体育学演習1では、競技スポーツコース、スポーツ教育コース、スポーツ文化コース、健康スポーツコース、武道コースの各教員より、専門知識の学習、体育・スポーツ・武道の専門化としての思考や判断能力を養う。	体育・スポーツ・武道にかかわる興味・関心について、関連領域の基礎的な知識が修得できる。また、関連領域の先行研究を整理する能力や問題を抽出する能力を身につけるとともに、研究遂行のための基礎的スキルを身につける。	○	◎		○	
体育学演習2		演習	3	2	体育学演習2では、同演習1の学修を通じて、体育・スポーツ・武道を安全に指導や実践するための行動力を高める。また、各自の専門分野の課題を明確にして、解決のための能力も養う。	体育学演習1で身につけた基礎的スキルを発展させられる知識の蓄積と問題解決能力を身につける。体育・スポーツ・武道の専門家として、実践指導するための行動力を発揮できるようになる。		◎	○	○	
健康運動処方論(実習を含む)		講義	4	2	検診と運動負荷検査の実際について理解し、測定項目の結果を正しく理解できるようにする。その上で、生活習慣を変容させるような適切な運動プログラムの作成を行う。また、運動時の呼吸代謝系に対する薬物の影響についても理解を深める。	健康の維持増進や生活習慣病改善のために重要な運動療法が疾患を持つ人にも安全に実施できるようにするため、運動負荷検査(呼吸・心電図・血圧)を理論と実習の両面から学ぶ。また、生活習慣改善に必要なとなる行動変容の知識を習得する。	○	○	◎		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)												
	科	目	名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
									①	②	③	④	⑤
体育学特別演習			演習	4	2	体育学特別演習は、体育学演習1・2で身につけた知識や理解、思考力をさらに深めるため、体育・スポーツを安全に効果的に指導する能力を養うとともに、生涯スポーツに行かせる態度を身につける。	体育学演習1・2で身につけた専門的な知識や理解、問題解決能力を生かし、卒業研究に発展させられる思考や判断力を身につける。体育学特別演習では課題解決能力をさらに進化し、理論に基づいた行動力を身につける。				◎		○
卒業研究			演習	4	4	体育・スポーツ・武道の専門家としての知識を習得し、その能力を指導面で生かすために、の課題を明確化できる。また、各自の興味・関心ある研究テーマの設定、研究計画、調査・測定、統計処理、考察、論文化や発表できるスキルを身につける。	体育・スポーツ・武道の専門家として、十分な知識や実践力から、自らの解決したい研究テーマが設定でき、身につけた研究能力を生かして課題解決できる能力を獲得する。	◎	○			○	
スポーツトレーニング論			講義	2	2	スポーツや身体活動における力発揮、スピード、持久性などを高める各種のトレーニングの実施は、競技力や体力の維持・向上にとって不可欠である。本授業では、スポーツトレーニングの遂行や計画に必要な基礎および応用的知識を習得する。	トレーニングの概念、および運動生理学等の理論を背景とした各種のトレーニングに関する科学的基礎、また、それらに基づく様々なスポーツ・身体活動場面でのトレーニングの応用手段や計画方法についての知識を身につける。	◎	○			○	
スポーツバイオメカニクス			講義	2	2	バイオメカニクスの視点から、体育・スポーツにおける様々な身体運動の仕組みについて学習する。身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識(基礎編)と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ知識(応用編)を学習する。	力学の法則に照らして運動に関連する生態の構造や機能などについて学ぶ。また、様々なスポーツにおける動作とパフォーマンスとの関わりについて理解し、運動のしくみについて考える力を身につける。	◎	○			○	
スポーツコーチ論			講義	3・4	2	競技スポーツ、健康・体力づくりを目的としたスポーツ活動など、多くの人々がスポーツに参加するようになった今日、その指導を正しく行うための合理的なコーチングについて学習する。また、スポーツコーチとしてどうあるべきかについて学習する。	スポーツコーチングを行う上での専門的な知識を習得し、実際の指導現場で役立てる能力を身につける。また、スポーツコーチとしての自分なりの哲学を身につけ、選手の人間力向上にも影響が与えられるようなコーチとしての資質を身につける。	◎	○	○			
スポーツカウンセリング			講義	3・4	2	スポーツカウンセリングとは、来談者であるアスリートが自分自身を知る機会をつくり、乗り越えていくための心理的援助活動である。本授業では、実習をととして、アスリートを対象とした心理的援助活動の理論と方法について学ぶ。	今の自分自身と向き合う機会をつくと共に、指導者という立場で選手や生徒から相談を受けた場合、どのように対応すればよいのかなど、スポーツカウンセリングの基礎的な理論および方法を理解し身につける。	○			○	◎	
スポーツ栄養学			講義	2	2	スポーツ選手において栄養はコンディションの維持やトレーニング効果を高め、競技力の向上には必要な要素である。スポーツ栄養学では、体育・スポーツに関わる者として、栄養学的知識の習得および食事の役割を理解する。	毎日の食生活の管理は健康の維持増進において重要であり、アスリートにおいても競技力向上やケガ・障害予防においても必要な栄養管理について、その重要性を理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食生活について知識を身につける。	◎	○				
スポーツコンディショニング論			講義	2	2	スポーツコンディショニングは、競技力向上や障害予防のための体のメンテナンスに着目し、競技者や指導者として必要なコンディショニングの手法を学ぶ。本授業では、競技力を高めたり、怪我からの回復のために必要な知識や実践力を身につける。	スポーツ科学を利用した、競技パフォーマンスの向上や怪我からの復帰に必要な知識、コンディショニング方法が身につく。トレーニングを計画する際に必要な基礎理論が理解でき、競技者がパフォーマンスを十分発揮できる能力を習得する。	◎	○	○			
スポーツマッサージ(テーピングを含む)			講義	3・4	2	スポーツマッサージはコンディショニング、障害の予防・治療などに広く用いられており、テーピングは応急処置、障害の予防や再発防止にとつて有用な手段である。本授業では、スポーツマッサージおよびテーピングについての理論、および基本的な手技を習得する	スポーツマッサージについては、その原理や作用・効果等を十分に理解し、それらに基づいたマッサージの基本手技が使えるようになること、および、テーピングについてもその理論の理解とともに、主要な技術を身につけることを目標とする。	○	○		◎		
スポーツ教育学			講義	2	2	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツが抱える様々な問題、体育授業を含むスポーツ活動場面の具体的な事例などを取り上げて、スポーツとは何かについて考えたり、スポーツに内在する価値や教育的可能性を探ったりする。	スポーツ教育学の学問的個性や課題を理解し、教育現場におけるスポーツのもつ教育的可能性およびその意義、スポーツ活動を通じて人の成長を支援するための方法に関する知識を習得する。	◎	○			○	
野外教育論			講義	2	2	レクリエーションの意義を理解し、その教育的効果について学ぶとともに、レクリエーションの事業展開について習得し、指導者として必要な知識・技能を身につける。	現代社会においてレクリエーションの果たす役割を理解するとともに、自然環境の中で行われる野外活動を例に取り上げ、基礎的知識を学習し、実践力に結びつく知識と技術を習得する。	◎	○	○			
保健科教育法			講義	3	2	学校体育における保健の授業が求められる役割を理解するとともに、授業を円滑に構成するための理論を学ぶ。生涯にわたり健康の維持増進に役立つ情報を活用した教材作り、授業に生かすことができる実践能力の習得を目指す。	健康の維持増進に必要なさまざまな知識を修得し、教師として授業が展開できる実践力を身につける。保健の授業に必要な指導案の内容が理解でき、優れた保健授業が展開できるような教材を提示することができる。	○	○		◎		
学校体育特論			講義	3	2	現代の学校体育のあり方について、保健体育科教員の役割、学校における校務分掌の位置づけを理解し、学校現場の課題や解決ができる実践的な知識を身につける。また、学校現場の課題や対策について、事例を挙げて解決法を知り、行動できる能力を養う。	保健体育教員として、校務分掌としての仕事の役割を理解できる。教科指導ばかりではなく、学校に求められる教員の位置づけを知る。地域社会や保護者から求められる教員のあり方や生徒への対応能力を身につける。	○	○			◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)										
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
保健体育科指導法3	講義	3	2	保健体育科の授業において必要とされる指導内容や具体的な指導法、授業を効率的に運営する授業マネジメント技術に関する基礎的知識や技術を習得し、すぐれた保健体育教員になるための実践的指導能力を養う。	保健体育科教員として指導に必要な、各種運動・スポーツ、体育理論、保健等に関する知識・技能を深めたり高めたりすることができる。また、授業を円滑に進めるマネジメント技術や生徒への対応能力を身につける。	○	○	◎			
保健体育科指導法4	講義	3	2	保健体育科の授業において必要とされる指導内容や具体的な指導法、授業を効率的に運営する授業マネジメント技術に関する基礎的知識や技術を習得し、すぐれた保健体育教員になるための実践的指導能力を養う。	保健体育科教員として指導に必要な、各種運動・スポーツ、体育理論、保健等に関する知識・技能を深めたり高めたりすることができる。また、授業を円滑に進めるマネジメント技術や生徒への対応能力を身につける。	○	○	◎			
スポーツ方法(アダプテッド・スポーツ)	実習	3	1	この授業では障害者スポーツ論の講義で学んだ知識をベースに、様々な障害者スポーツを体験することで、より深い知識と技能を身につける。また、障害を持つ人へのスポーツ指導法も理解し、障害者と健常者が共に楽しくスポーツを行う方法を考える。	障害者の身体や運動能力を理解した上で、症状を重くすることなく、障害者が爽快感や達成感を得ることができるスポーツの指導法を身につける。様々なスポーツを体験することで、障害ごとの異なる特徴を把握し、ルール、用具を工夫する態度や能力を身につける。			◎	○	○	
スポーツ文化論	講義	2	2	本授業では、なにゆえ人間はスポーツなる文化を創り上げ、そして時代はスポーツにどのような役割を担わせてきたのか。さらに現代スポーツの再考、および今後の展望を考えることにつながるスポーツ文化論について学ぶことを目的とする。	スポーツが文化として営まれ始めた先史時代から現代にいたるまでのスポーツの意味づけおよびスポーツを取り巻く社会背景、思想、価値観の変遷について理解する。また、今後、スポーツはどのような文化となるのかを展望する知識と方法を習得できる。	◎			○	○	
生涯スポーツ論(スポーツ政策を含む)	講義	2	2	生涯を通じて、個人の年齢・体力・選考にあったスポーツと親しむ社会を実現するべく、ライフステージにおけるスポーツとの関わり方を考察する。そして、国内外のスポーツ実践の事例を通じて、競技性の向上に限らず、スポーツに関わる幅広い可能性について理解を深める。	現代社会における各ライフステージの社会的視点における特徴を理解し、生涯を通じてスポーツに親しむことの意義を理解する。さらに、スポーツ参加における促進要因と阻害要因を理解し、生涯スポーツの普及と実践するうえでの態度を身につける。		◎		○	○	
身体コミュニケーション	講義	2	2	現代におけるさまざまな文化的価値観や身体観、あるいは美的概念について読みとくことを通して、過去から現代に至るまで日常の中で身体をツールとしたコミュニケーションを、溢れ出ている現象から今を生きる私たちや社会の求めている価値観を考察する。	主として「身体を使う」パフォーマンス(ダンス・演劇・芸術の要素を内包するスポーツ等・ファッションや衣食)に着目し、コミュニケーションのツールの一つとして、スポーツ・芸術における人間の感情表現としての身体表現についてのより深い知識と関心を習得する。	◎	○		○		
スポーツマネジメント	講義	3	2	国内外における地域スポーツからトップスポーツに関する幅広い事象を扱い、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」という多様な観点から経営的視点で考察する。また、戦略的に人々がいかにスポーツの価値を享受するかを、学生同士での議論を交えてながら理解を深める。	スポーツに関わる経営学的、社会的現象を概観しながら、実践的にスポーツ現場をマネジメントするうえでの学術的知識を習得する。加えて、スポーツ業界を含めてビジネスの実践に結び付けよう、顧客の需要をマネジメントする理論を身につける。			○	◎	○	
スポーツ社会学	講義	2	2	スポーツは文化であると同時に、それを内包した社会と考えることができる。スポーツと社会の関わりについて、パーソナリティ、行為、社会化、価値、役割、制度等をキーワードに多面的に学習する。	スポーツという行為、スポーツと社会の関わりを正しく理解する。さらにスポーツに関わる社会的な専門用語の正しい意味を理解し、他者に説明できるようになる。また、さまざまなスポーツ事象に深い関心を持ち、当該事象についての意見を持てるようになる。	◎			○		
スポーツ人類学	講義	3	2	本授業では、文化人類学およびスポーツ科学・体育学にまたがる学際的学問領域としてのスポーツ人類学を学ぶことで、スポーツを文化として読み解くための方法とスポーツ文化の多様性について理解することを目的としている。	スポーツが様々な文化や社会においてそれぞれの価値観に基づき創られてきた文化であることを理解する。また、民族・伝統スポーツから国際スポーツまでの広範なスポーツについて学ぶことで、スポーツの多様性について理解できる。		◎		○	○	
スポーツメディア論	講義	3・4	2	現代社会の各種メディアにおけるスポーツを扱う事例を取り上げ、スポーツメディアの多様化によって生じた革新や課題を考察する。また、学生同士でのグループワーク等の機会を通じて、メディアが有する社会的役割の理解や問題点について理解を深める。	現代にいたるまでのスポーツと各種メディアとの関係性の変容を理解し、スポーツ分野におけるメディアの影響力について把握する。また、具体的な事例をもとにメディアの有効性のみならず、批判的な考察を通じて個人的なメディアに対する思考力を身につける。				◎	○	
心身健康論	講義	2	2	日常生活において、また人の一生において遭遇するであろう心身の問題に対する理解を深める。そして、自己だけでなく他者の問題に対しても理解と共感を持って接するために必要な基礎的知識を習得する。	心身健康論では心と体の二元論では把握できないさまざまな心身の問題と「健康」の観点から取り上げることで、心身のより良い状態の実現にはどうすれば良いのか、心身が相関する問題の解決には何が必要なのかを学ぶ。	◎	○				
スポーツ医学	講義	2	2	スポーツ医学は、運動生理学など基礎医学領域から、競技選手、スポーツ愛好者におけるスポーツ損傷の治療・リハビリテーション、生活習慣病に対する運動療法など、多彩な領域を含んでいる。特に内科的、整形外科的スポーツ障害について、理解を深めることを目的とする。	スポーツ医学に関する基礎的事項、内科的・整形外科的スポーツ傷害・障害とその治療・リハビリテーション、ならびに予防について理解する。スポーツ現場において適切な対応ができるように視聴覚教材や解剖モデルを使って要点を習得する。	◎	○	○			
健康栄養学	講義	3	2	健康づくりのための栄養学に関する基礎知識について学ぶとともに、生活習慣病予防に必要な各ライフステージに適した食生活について理解を深め、自らおよび人の健康づくりに役立てられる知識を習得する。	日本人の食生活の変化やそれに伴う疾病の増加について理解し、健康の維持・増進のための食生活に関する知識を修得する。また、生活習慣病の予防ならびに改善のための食生活について理解と行動する能力を身につける。	○	◎				

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)								
科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
健康運動論	講義	3	2	日常的に運動を継続することは、疾患の予防や治療に効果があることが明らかになってきている。運動・スポーツ・身体活動が効果を及ぼす疾患、特に生活習慣病について理解を深めるとともに、生活習慣病に対する運動療法について学習することを目的とする。	生活習慣病に含まれる各疾患について理解を深め、それぞれの疾患に対する運動療法を学ぶ。この講義全体を通して、運動・スポーツ・身体活動が生涯を通じた健康づくりに寄与できるものであることを学び、今後の生活スタイルに役立てる。	◎	○			○
健康管理学(小児保健を含む)	講義	2	2	外部因子である物理的・化学的・生物学的・社会的因子等と、生活習慣や加齢等の内部因子が相互関連して健康に影響を及ぼしていることを学ぶ。更に、尊敬を持って生きるために不可欠な「健康」の概念についても理解を深める。	疾病の発生に生活習慣が大きな要因となっていることを学び、みずからが改善できる余地があることを知る。更に、健康管理は個人レベルの問題だけではなく、地域レベルや地球規模レベルの問題でもあることを理解する。	◎	○			
衛生学(公衆衛生学を含む)	講義	2	2	「衛生学」(公衆衛生学を含む)を広く学ぶが、また、この科目は、中・高の保健体育教員になるための必修科目であることから、教科「保健」の内容の基礎知識として身につける。	疫学の方法論、人口統計、適応、電磁波、安全・睡眠・労働と環境、労働安全衛生などの衛生学の知識を、自らの生活や、スポーツの競技場面・指導場面で生かせる。また、中・高の保健体育教員になる者は、「保健」の授業づくりに利用できる。	◎			○	○
発育発達・老化論	講義	3・4	2	人間の一生におけるからだの発育・発達・老化について理解し、その生理学的特性や体力・運動能力に関する知識を身につける。また、これらの特性をふまえた健康・体力づくりを考慮した安全な運動・トレーニング方法を指導できる力を身につけることを目的とする。	生涯にわたる心身の発達が一般的にどのような経過をたどるのか、またその発達に運動やスポーツがどのように関わるのかについて生涯発達の視点から理解できる。専門家として、その知識を活かし、健康づくりの指導ができる実践能力を身につける。	○		◎		
精神保健	講義	3・4	2	何らかの理由で精神科学の知識を必要とする人に、主に「精神保健」の枠内で、広く浅く教養一般として、その概略を学んぶ。精神医学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療について理解する。	精神保健にかかわる主な状態や疾患の疫学、病院や治療について幅広く学び、精神科学の知識を身につける。さらに、保健体育の教員として接する思春期や青年期の心の諸問題について原因や治療について理解し、精神の健康に役立つ行動能力を身につける。	◎		○	○	
柔道論	講義	1	2	柔道の持つ特性と、その時代背景を把握し、武術から柔道へどのようにして移行していったのか、技術がどのように変化し、発展してきたかを探索。そして、柔道の創始者である嘉納治五郎師範について学び、今後柔道はどうあるべきかを究明し学習する。	柔道の特質と身体的意義を究明し、人間形成における影響や、現代社会において柔道が生かされる意義について学習しながら創始者である嘉納治五郎師範の哲学を理解する。また、オリンピック種目となった柔道の今後の発展について理解を深める。	○	◎			
剣道論	講義	1	2	江戸時代初期の柳生宗矩は、戦闘手段としての「武技」を、自己教育を内包する「武道」的な文化として確立した人物である。本授業は、宗矩の著書『兵法家伝書』の読解を通して、技の習練が心の開明に関係づけられる機序を理解し、現代剣道に適用できる「心法」について考えることを主題としている。	剣道にける、技法の習練と心のあり方の関係について理解するとともに、現代剣道にも通用する術理を発見し、パフォーマンスの向上が技術だけではなく精神のはたらきや、他者の観察が重要であることを学び、パフォーマンスや指導力の向上に結びつける視点を確立する。		◎		○	○
柔道史	講義	2	2	講道館柔道は、嘉納治五郎が天神真楊流と起倒流を学び「工夫を加えれば武術的文化財のみならず「知育・徳育・体育」すなわち教育に生かすことができる」と考え創始した。本講義では、柔道がどのように創始され、発展してきたかを歴史的経過と合わせ概説する。	約5000年前に、エジプトナイル河畔のベニハッサンの墳墓の壁画に、裸体で組み合っている群像が描かれている。日本では、古事記・日本書紀に戦いに関まつる話が掲載されている。それが、どのような経過を経て講道館柔道として創始されたかを学ぶ。	◎				○
剣道史	講義	2	2	剣道は、わが国古来の伝統的な身体運動文化である劔術に由来する。今日の剣道がいかに成立し、発展を遂げてきたのか、その歴史を知識として身に付けることで、剣道における伝統・文化性とは何かを学習する。	剣道の歴史的な基礎知識を身に付ける。また、剣道の用具や自身が実践で駆使している技術についてその成立過程を理解し、説明できるようにする。さらには、身に付けた知識を踏まえ、今後の剣道の発展について自身の考えを持つことが出来るようになる。	◎				○
武道思想史	講義	2	2	武道は、各時代の変遷を経て武士による武士の道として心身ともに研磨され、体系的にも確立され現代に至っている。武道の思想から発する精神が、日本の伝統的信念だけでなく、国際社会に通用する方法を最終的に追及する。	各時代において、武士が社会に与えた影響等を学ぶ。それと同時に、各時代の武士の思想や社会の思想の変化に気づくことができる。最終的に現代思想も含め、国際基準をもとに日本の武士が作り上げた思想を知識として習得する。	◎	○		○	
武道国際事情	講義	2	2	日本の歴史と伝統のもとに培われた武道は、今や日本の文化として世界の注目を集めている。その武道の国際化が進む中で日本の武道が海外でどのように理解され、普及・発展してきたかを探索とともに、今後どうあるべきかを学習する。	国内外での武道の普及・発展状況を探りながら、海外での武道に対する意識・武道とスポーツとの関係・武道の技とルール等を学び、今後の課題と更なる発展を考えていく。また、実際に海外で武道を指導する上での知識についても習得する。	◎				○
柔道特別実習1(柔の形1)	実習	1	1	柔道を専門としている学生を対象に、柔道における攻撃防御に関する原則的な力の用法、柔の理合について「柔の形」は、身体動作、体さばき、作りと掛け、実際を指導し、柔道の基本を理解体得させる。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「柔の形」の第一教五本、第二教五本の歴史・意義を理解すると同時に、力の用法、柔の理合を習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎		○
柔道特別実習2(柔の形2)	実習	1	1	柔道を専門としている学生を対象に、柔道における攻撃防御に関する原則的な力の用法、柔の理合について「柔の形」は、身体動作、体さばき、作りと掛け、実際を指導し、柔道の基本を理解体得させる。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「柔の形」の第一教五本、第二教五本、第三教五本の歴史・意義を理解すると同時に、力の用法、柔の理合を習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎		○

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)												
	科	目	名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
									①	②	③	④	⑤
	柔道特別実習3(投の形1)		実習	2	1	柔道を専門としている学生を対象に、個人の柔道の技術を高めるために、技の崩し、作り、掛けの理合を追究し、柔道の競技力向上に役立たせることを目的とし、基本動作、「投の形」などの理合を学習するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「投の形」の手技三本、腰技三本、足技三本の歴史・意義を理解すると同時に、投げ技の理合いを習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	柔道特別実習4(投の形2)		実習	2	1	柔道を専門としている学生を対象に、個人の柔道の技術を高めるために、技の崩し、作り、掛けの理合を追究し、柔道の競技力向上に役立たせることを目的とし、基本動作、「投の形」などの理合を学習するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「投の形」の手技三本、腰技三本、足技三本、真捨身技三本、横捨身技三本の歴史・意義を理解すると同時に、投げ技の理合いを習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	柔道特別実習5(古式の形1)		実習	3	1	柔道を専門としている学生を対象に、講道館の形のひとつとして「古式の形」は、技術的にも理論的にもすぐれている。技術や理論をより深く研究し、形の理合を研究し学習するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「古式の形」の表(体・夢中・力避・水車・水流・曳落・虚倒・打碎・谷落・車倒)の歴史・意義を理解すると同時に、投げ技の理合いを習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	柔道特別実習6(古式の形2)		実習	3	1	柔道を専門としている学生を対象に、講道館の形のひとつとして「古式の形」は、技術的にも理論的にもすぐれている。技術や理論をより深く研究し、形の理合を研究し学習するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「古式の形」の表十四本、裏七本の歴史・意義を理解すると同時に、投げ技の理合いを習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	柔道特別実習7(極の形1)		実習	4	1	柔道を専門としている学生を対象に、講道館の形のひとつとして「極の形」は、形の稽古により攻防のいろいろな、力の用法の原理を知り技の実際を無理のないように体得するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「極の形」の居取七本の歴史・意義を理解すると同時に、力の用法の原理を習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	柔道特別実習8(極の形2)		実習	4	1	柔道を専門としている学生を対象に、講道館の形のひとつとして「極の形」は、形の稽古により攻防のいろいろな、力の用法の原理を知り技の実際を無理のないように体得するものである。	嘉納治五郎は「柔道の修行=形+乱取り+講義+問答」であると説いた。この授業では、「極の形」の居取七本、立会十二本の歴史・意義を理解すると同時に、力の用法の原理を習得し、「受と取」両方を演武出来るようにする。	○		◎			○
	剣道特別実習1(剣道の基本動作)		実習	1	1	武道コース専修の学生として、剣道指導にあたって必要とされる、基本動作、対人的技能(しかけ技・応じ技)、攻め方、防御法などの技術構造の理解と、指導者にふさわしい示範ができるように技術練習をする。	剣道の指導者として重要なことは、「理合」(法則性)に適合した技を示範できることである。全日本剣道連盟・4段レベルの基本動作・技術力を身につけることが到達目標である。すなわち、姿勢が崩れず、適切な間合いから、身体各部が協調し、速く・強く・1拍子での打突ができるようになる。				◎	○	○
	剣道特別実習2(技と技術の構造)		実習	1	1	日本の伝統的な身体運動文化である剣道について、正しい基本動作(構え・足遣い・竹刀の振り方等)の学習を行う。また、初心者指導に大いに役立つ「木刀による剣道基本技稽古法」を学習し、習得する。	剣道の正しい基本動作を身に付ける。正しい基本動作を習得することで、自身の剣道実践上の課題をより明確にする。また、「木刀による剣道基本技稽古法」を習得し、初心者指導に役立てることが出来るようになる。		○	◎		○	
	剣道特別実習3(古流剣術の形1)		実習	2	1	古流剣術である直心影流の基本の形「法定」を学習する。法定の修練を通して、呼吸・発声の効果や学習し、剣道の有効打突の条件の1つである「充実した氣勢」とは何かを理解し、体得する。	法定を形として習得し、自身で修練出来るようになる。また、法定の稽古を通して、現代剣道においても呼吸が重要性であることを理解し、法定で習得した呼吸を取り入れることが出来るようになる。				◎	○	○
	剣道特別実習4(古流剣術の形2)		実習	2	1	剣道の競技可能年齢は非常に高い、すなわち、剣道技術の向上の過程は、長期間にわたる運動の自己観察と自己修正の繰り返しである。本授業では、自己の修正課題を設定し、ビデオ観察を活用して運動の自己観察能力と自己修正能力の向上をめざす。	自己が設定した課題について、課題とした「技」が自分の描く運動・理想像に近づくことが到達目標であるが、そのためには適切な運動修正法の選択が必要である。自己の課題の解決にあたって、適切な修正法の選択と、理想像への接近が到達目標である。			○	◎	○	
	剣道特別実習5(日本剣道形)		実習	3	1	全日本剣道連盟制定の「日本剣道形」の技法を確認するとともに、技法に内包される「理合」を反復練習によって学習する。一般に日本剣道形の演武は、高段者を除いて木刀によって行われるが、本授業の後半では、日本刀(刃引)を使用し、剣道形のリアリティも体験する。	大学生として取得が可能な剣道段位は4段までであるが、本授業では全国審査である6段程度の演武能力を目標としている。また、日本刀による練習を通じて、刀を扱う作法を学び、安全に使用することが出来るようにする。	○			◎		○
	剣道特別実習6(剣道五行之形)		実習	3	1	剣道五行之形を学ぶ。この形の修練を通して、刃筋の良否を学習し、剣道の有効打突の条件の1つである「刃筋正しい打突」を理解し、習得する。	五行之形を習得し、自身で修練することが出来るようになる。また、五行之形から、握り上げ、握り落とし、握り流し、握り込みなどの端の違った技術を身に付け、現代剣道に応用することが出来るようになる。				◎	○	○
	剣道特別実習7(審判法)		実習	4	1	剣道試合の審判規則・試合細則の学習をし、審判員として試合運営を行うために必要な知識を身に付ける。さらに剣道の試合の中で起こり得る様々なケースを想定した上で模擬試合を行い、試合の中で正しい有効打突の判定・反則の運用などについて学習していく。	剣道試合審判規則・試合細則を知識として理解し、試合の中で運用することが出来るようになる。また、有効打突の正しい見極めが出来るようになる。	○			◎		○

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)									
科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
剣道特別実習8(指導法)		実習	4	1	中学校の必修科目としての剣道指導に必要な、目標論・内容論・方法論について学習する。単元目標として、剣道の基本動作、対人的技能(しかけ技・応じ技)を設定し、授業時間・回数を45分×10回とし、指導者側・生徒側に分かれて実習し、指導能力の向上を図る。	各時限の目標・内容・方法が適切に設定され実行されることが到達目標である。目標・内容については、中学校レベルの生徒に対する目標設定や内容選択が適切であるか。方法については、正しい技術構造を理解し、効率的に、安全に指導がなされている。	○	○	◎		
スポーツ方法(体づくり運動・集団行動)		実習	1	1	本授業では、体を動かすことの楽しさ、面白さを理解し、健康な生活を送るために必要な運動を日常生活に楽しく取り入れる指導ができる能力を養う。また、正しい体の使い方を習得することでスポーツ技術の向上、ケガの予防など、スポーツへの応用にもつなげる。	体づくり・ほぐし運動の実践と指導の工夫ができるようになる。既存の様々な体操(ラジオ体操やみんなの体操)の実践ができるようになる。集団行動に必要な指導能力を身につけるとともに、年齢や目的に応じた体づくり運動の創作する能力も身につける。	○	○	◎		
スポーツ方法(器械運動)		実習	1	1	器械運動の授業を展開できる程度の技能および知識を獲得し、更には具体的な指導法などについても学習する。具体的な技の名称や体系、また実施上のポイントや起こり得る怪我の可能性や対処法についても学習し、指導をする上で必要な能力獲得を目的とする。	マット・跳び箱・鉄棒・平均台運動の高等学校の学習指導要領までに例示されている技の技能を身につける。およびその技に関する知識や効果的な指導・練習方法について身につけられる。	○		◎		○
スポーツ方法(陸上競技)		実習	1	1	陸上競技を構成する走・跳・投の各種目について、生理学的・バイオメカニクスの特性などの基礎的知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高める。また、各種目の練習法および指導法について学習する。	本授業内で実施される、1)100m、2)100mH、3)走幅跳、4)走高跳、5)砲丸投、6)やり投、7)中距離走のそれぞれの種目における体力的・構造的な特性を学ぶ。また各種目における技術を修得するとともに、練習法や指導方法についても学ぶ。	○	○	◎		
スポーツ方法(水泳)		実習	1	1	生涯スポーツや競技スポーツで行われている「水泳」に関する理論、技術や技能について実践を通して理解し、正しい泳ぎ方を身につけ、示範ができるようにする。また効果的な指導方法や水泳の理論についても学ぶ。	安定した各種泳法を一定距離、泳げるようになる。個人メドレー種目がターン動作も含めて泳げるようになる。安定した泳ぎの示範ができるようになる。正しい水泳に関する知識、指導法を身につける。	○		◎		○
スポーツ方法(柔道)		実習	1・2	1	柔道の基本である「受け身・姿勢・組み方・技の崩しと作りと掛け」について学習する。さらに、基礎的な対人技術を習得し、礼儀や相手を尊重することでルールを守り協力するなどの社会的態度や行動、思考力を身につける。	基本的な投げ方、技が効く理合、受け身の仕方等を理解し、実践できるようにする。また、柔道の技術習得のみならず、それらの技術を活用して、身体の特徴を理解し、社会生活に応用できるようにする。	○		◎		○
スポーツ方法(剣道)		実習	1・2	1	日本の伝統的な身体運動文化である剣道について、木刀による剣道基本技稽古法や打ち込み稽古を通して、基本的な仕掛け技・応じ技を習得する。その後、習得した技を駆使し、試合を行い、対人的技能を高めていく。	剣道の基本動作(構え・足遣い・竹刀の振り方)や基本的な打突法などを習得する。また、習得した技術を用いて試合を行い、相手との攻防を楽しむことが出来るようになる。また、用具の取り扱いについても理解し、正しく丁寧に使用することが出来るようになる。		○	◎		○
スポーツ方法(ダンス)		実習	1・2	1	ダンスの創る・踊る・観るのノン・バーバルなコミュニケーションを体験することで、自分自身の身体への気づきやダンスの理解を深め、また、将来中学校及び高等学校の指導者として、ダンス指導ができるよう、様々なダンス教材を取り上げ、その指導法についても学習する。	創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンス等の学習を通して、ダンスの楽しさや喜びを味わい、極限まで身体を動かすことで動きの本質や内包するイメージをとらえ、ダンスを通して交流し、互いの良さを認め、役割を分担するなど、協力的な態度を身につける。		○	◎		○
スポーツ方法(バスケットボール)		実習	2	1	本授業では、バスケットボールの基礎技術を習得し、個人戦術からグループ戦術、さらにチーム戦術へと発展させて競技特性を活かしたゲーム展開ができることを目的として授業を進めていく。	前半は競技特性とゲームの構造を理解し、必要とされる個人技術の習得を目指す。次に、グループ戦術を構築してアウトナンバー(数的優位)プレイのゲームができるように理解する。後半にかけてチーム戦術に発展させ、ゲームの安全管理と運営についても理解する。		○	◎		○
スポーツ方法(ハンドボール)		実習	2	1	ハンドボールは敵と味方の位置関係が絶えず変化するテンポの早いボールゲームであり、スピード・パワー・状況判断など運動能力が要求される。個人のスキルとともにチームの戦術に役立つ能力を身につけ、スキルアップを目指す。	ゲームや練習を通じてハンドボール特有の動きである走・跳・投の学習、およびその動きを習得する。また、個人戦術やグループ戦術を理解でき、その動きやフォーメーションをゲーム内で積極的に実践していくこと能力を身につける。			◎	○	
スポーツ方法(サッカー)		実習	3	1	サッカーは数多くあるスポーツ種目のなかでも、手を使うことを厳しく制限された特異な種目である。そのため、足を使ってボールを蹴る、またはコントロールする能力を修得させる。	サッカーに必要な技術の習得を第一に考え、対人競技であることを常に意識して課題に取り組む。そのなかでもとくに、「ゴールを奪う・ボールを奪う」といったサッカーの基本的な考え方を実践できるようにする。	○	○	◎		
スポーツ方法(ラグビー)		実習	2	1	ラグビーは身体をぶつけ合ってボールを奪い、広いグラウンドを走り回る力強さとスピードと変化に富んだスポーツである。ラグビーの醍醐味であると激しいプレーと危険性を理解し、ラグビーがより楽しく安全に出来る基礎技術の習得と指導者としての能力を養う。	ラグビーのゲームにおける個人スキルの基本的要素は、ハンドリング・コンタクト・ランニング・キッキングから成り立っている。この基本的技能を理解し、リードアップゲームやミニラグビーを行いながら基礎的技術を習得する。		○	◎		
スポーツ方法(バレーボール)		実習	2	1	バレーボールはネット型の中でも特に連携プレイが必要となる競技である。空中のボールを適切にコントロールする個人スキルを身につけるとともに、チームの仲間と連携して攻防することで、バレーボールを楽しむ態度を養う。	バレーボールの基本的なスキルを習得するとともに、2対2および3対3のミニゲームを通して連携プレイに必要な判断力を養う。また、ルール、各ポジションの役割、チーム戦術を理解し、6対6のゲームにおいて仲間と協力しながらプレイできる能力を身につける。		○	◎		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)										
	科 目 名	授 業 形 態	配 当 年 次	単 位	授 業 の 主 題	授 業 の 到 達 目 標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
スポーツ方法(テニス)	実習	3	1	テニスの技能に関する基礎的な理論を学習するとともに各種の練習プログラムを実践することにより基本技術や戦術を習得する。また、その過程でルールの理解を深め、楽しくゲームができる能力を身につける。	テニスの基本技術であるグランドストローク、サーブおよびボレーの技術を習得する。またゲームを通してルールや戦術の理解と実践能力を高めるとともにテニスの魅力に触れることで、生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力を身につける。	○	○	◎			
スポーツ方法(バドミントン)	実習	3	1	生涯スポーツや競技スポーツで行われている「バドミントン」に関する技術や技能について運動学・運動生理学・バイオメカニクス等の科学的な分析から運動現象を理解し、実際に行なわれているストロークやフットワークなどの実践ができるようにする。	バドミントンの技術を理解し、シャトルを狙った場所にコントロールできる実践能力を身につける。各種ストロークを打ち分けることができ、ゲームの戦術に生かせる能力を身につけるとともに、生涯にわたってスポーツライフを楽しむことができる態度を獲得する。			○	◎		○
スポーツ方法(卓球)	実習	2	1	本授業では、卓球を行いながら楽しく身体を動かし、ラリーやゲームの楽しさ習得することを目的とする。そのため、卓球の特性を理解したうえで、基本技術やルールを身につけ、将来卓球に親しみきっかけになることを期待し、態度や意欲を身につける。	卓球の基本的な技術を身につけていく中で、安定したラリーを習得し、戦術(時間戦術・空間戦術・回転戦術)を理解したうえで、ゲームをする能力を身につける。ルールを把握することにより、審判法と同時に、卓球のゲームにおけるマナーや態度を身につける。			○	◎		○
スポーツ方法(ソフトボール)	実習	2	1	ソフトボールは、ベースボール型の球技であり、攻守を交代しながら得点を競い合う競技である。ボールを投げる、バットで打つ、塁間を走るといった基本的な技術と戦術を理解し、生涯にわたるソフトボールを楽しむ能力を養う。	走攻守の理解を通じて、安定したバット操作、タイミングよい走塁、ボールの操作、守備の連携に必要な知識や技術を身につける。チームに分かれて競い合うことで、勝負の楽しさ、チームプレイの大切さ、フェアプレイの心を醸成する。				◎		○
スポーツ方法(ホッケー)	実習	3	1	本授業では、ホッケーの基礎的スキル能力をより効果的に向上させるためにスティック操作能力の技術習得を目的とし、競技者としての能力が向上できるレベルのホッケー技術を習得する。	スティックでボールを適切にコントロールする各種技術を習得するとともに、スティック以外でボールに触れてはならないホッケー特有のルールを理解できるようにする。段階を踏みながらホッケーの楽しさや勝つことを理解できるようにする。				◎	○	○
スポーツ外国語会話	実習	3	1	スポーツで用いる身体動作やルールといった専門用語としての諸言語に注目し、スポーツ文化の側面から多様性について理解を深める。また、競技者、指導者、審判員、観戦者といった立場を想定したコミュニケーションツールとしての外国語会話を実践的に学ぶ。	スポーツ場面で用いられる英語をはじめとした諸外国の言語の習得を目指す。スポーツに関連付けた会話の実践を通じて他者理解は、スポーツがもつ平和的共存の役割の理解にもつながるものとして学習することができる。				○	○	◎
健康・体力づくり運動(トレーニング)	実習	1	1	運動・スポーツなどの身体活動が、健康や体力を保持・増進し、生活の質の向上や生活習慣病の予防に役立つことを理解する。また、安全に実施できる運動トレーニングの方法や、健康・体力に関する身体形態・組成測定法および機能評価法についても習得する。	健康づくりの専門家として、運動やスポーツの効果と危険性が理解でき、体力や年齢に応じた運動やスポーツの指導ができる指導の基礎的能力を身につける。将来、健康づくり分野の指導者となる能力や行動力を習得している。	○			◎	○	
健康・体力づくり運動(エアロビック・エクササイズ)	実習	2	1	エアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、筋力強化エクササイズとストレッチングの実践についても学習する。	エアロビックダンス指導に必要な基本技術や動作を身につける。また、エアロビックダンス指導に必要な基礎理論を理解できる。最終的には、体育の授業や健康・体力づくり施設等で役立つよう、プログラミングと指導のロールプレイングの知識と実践力を身につける				◎		○
健康・体力づくり運動(レクリエーションスポーツ)	実習	2	1	競技力向上あるいは教科としての体育・スポーツとは異なる視点から、スポーツや身体活動を「誰でも、いつでも、どこでも、楽しく」できるよう工夫し、支援・指導、提供する方法を学ぶ。	楽しさを創出するための様々なスポーツ・身体活動、さらにはスポーツの原点である遊びを体験し、最終的にレクリエーションスポーツを立案、実践できる能力を身につける。			○	◎		○
競技力向上・支援活動	実習	4	1	各自の専門種目をクラブ活動として4年間続け、その中で競技スポーツに関する基礎的、専門的な知識・技能を習得し、将来、様々な社会・分野で活躍できるスポーツマンを目指す。また、スポーツを通して社会に役立てる人材を養成する。	各自がそれぞれの専門競技クラブに所属し、4年間勉強にやり遂げる。その中で基礎的、専門的な知識・技能を習得し、将来スポーツ現場のコーチとなった時に活かせるようにする。また社会人として、スポーツを通じた社会貢献ができる能力や態度を養う。	○	○		◎		
スポーツ特別演習	演習	1・2・3・4	2	スポーツ競技の指導力を高めることや、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を得ることにつながる、体育・スポーツ科学に基づいた各競技種目の指導についての高度な知識、技術および技能を身につける。	各競技種目の指導者としての知識を修得するとともに、競技力向上やスポーツの振興に役立つ指導法を身につけている。生涯にわたってスポーツライフを実現させるために、参加者を導くことができる人間性を備えた指導者に育つ。	○			◎		○
スポーツ方法(スキー)	実習	1	1	スキーの魅力や白銀の世界で堪能し、スノーボードの素晴らしさを体験し、スキー指導者として技術を習得するとともに安全への配慮、指導法を学習することとする。	能力別に分けた班編成により、技術レベルに応じたスキー技術と運動、安全に対する知識、指導者としての心構えなどを習得し、整地された緩中斜面を安全且つ連続したターンで滑ることができる。			○	◎		○
スポーツ方法(スケート)	実習	1	1	フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケーに共通するスケートの基本技術の習得を図るとともにそれらのルールおよび戦術についても理解を深める。また氷上での安全に関わる知識についても学習する。	アイススケートの基本的な滑走技術を習得する。また、その過程でスピードスケートでは氷上でのスピード感を、アイスホッケーでは氷上ゲームの楽しさを体感することで、生涯にわたってウィンタースポーツに親しむ資質や能力を身につける。	○	○		◎		

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている(知識・理解) ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている(思考・判断) ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている(技術・行動) ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている(関心・意欲) ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている(態度)										
科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	
スポーツ方法(野外活動)		実習	1	1	野外活動での組織的な集団生活を通して、豊かな人間関係、社会的態度の在り方について習得するとともに、その基礎理論、技術、教育的価値を理解する。また自然への興味や関心を高め、教育の場としての自然についての知見を深める。	野外活動の代表的な活動である組織的なキャンプを取り上げ、野外活動の教育的価値やチームビルディングの在り方を体験的に学習し、新たな「自分」の発見や新しい「仲間」とのコミュニケーションを積極的に図り、豊かな人間関係の構築とその技能を学ぶ。	◎	○	○			
社会体育・スポーツ指導実習		実習	4	2	健康を維持増進するために身につけた知識や技能を、健康づくり産業にかかわる施設(フィットネスクラブ等)での指導実習を通して、健康づくりの指導者として必要な知識や対応力、課題解決能力や態度を学ぶ。	健康運動指導士や体育・スポーツの専門家として、生涯にわたり健康を維持したり、増進させるための指導者としての能力を身につける。また、課題を解決できる知識と実践力を身につけている。			○	◎	○	
スポーツボランティア(実習を含む)		実習	1・2・3・4	1	スポーツを支えるために必要なボランティアの歴史や現状を理解し、スポーツボランティアとして必要な知識やスポーツを支えるための実践能力を養う。	マラソン大会や各種競技会などで求められるボランティアの能力を有するとともに、スポーツを支える人材になり得る実践能力や行動ができる。			○	◎	○	
スポーツ特別活動1		実習	1・2・3・4	1	スポーツや武道に関わる競技力向上のための活動、指導力向上のための活動、専門的知識向上のための活動の取得に対して、専門的な知識や能力を身につける。	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(コーチや指導員等)、講道館や全日本剣道連盟の段位・称号、全日本スキー連盟や全日本スケート連盟の級・準指導員・指導員を取得する。			○	◎		
スポーツ特別活動2		実習	1・2・3・4	1	スポーツや武道に関わる競技力向上のための活動、指導力向上のための活動、専門的知識向上のための活動の取得に対して、専門的な知識や能力を身につける。	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(コーチや指導員等)、講道館や全日本剣道連盟の段位・称号、全日本スキー連盟や全日本スケート連盟の級・準指導員・指導員を取得する。			○	◎		
スポーツ特別活動3		実習	1・2・3・4	1	スポーツや武道に関わる競技力向上のための活動、指導力向上のための活動、専門的知識向上のための活動の取得に対して、専門的な知識や能力を身につける。	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(コーチや指導員等)、講道館や全日本剣道連盟の段位・称号、全日本スキー連盟や全日本スケート連盟の級・準指導員・指導員を取得する。			○	◎		
スポーツ特別活動4		実習	1・2・3・4	1	スポーツや武道に関わる競技力向上のための活動、指導力向上のための活動、専門的知識向上のための活動の取得に対して、専門的な知識や能力を身につける。	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(コーチや指導員等)、講道館や全日本剣道連盟の段位・称号、全日本スキー連盟や全日本スケート連盟の級・準指導員・指導員を取得する。			○	◎		
海外スポーツ協力論		実習	1・2・3・4	1	海外スポーツ交流実習のオリエンテーションとして、海外のスポーツ・文化などの知識や現地での活動に必要な言語を事前に学ぶ。また、海外での実習に対応できるよう、生活マナーや経済状況の理解など、海外交流に必要な基本的な知識と態度を身につける。	「海外スポーツ交流実習1～4」(1単位)と一体の授業であり、海外で約2週間におたる海外でのスポーツ交流活動を行うために、事前授業としての本科目の中で様々な準備を行い、充実した実習が実現できるようにする。	◎	○				
海外スポーツ交流実習1		実習	1・2・3・4	1	実習を通して海外現地の方とふれあい、スポーツとのかかわりを知るだけではなく、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。また、そこにかかわる人々との交流により、対異文化行動力を修得できることを目指す。より現地の人々にとけ込むためには、若干の語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部で現地語の学習も行う。実習1は、上記の内容の入門・体験的段階とする。	(1)海外でのスポーツ交流活動を通じて、自身の新たな可能性を発見できる。 (2)海外においてスポーツをする機会がどのように提供され、それを行う設備の整備、指導員育成、指導法がどのように確立され、運営されているのかを多面的に学ぶことができる。 (3)異言語を用いて現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。 (4)天理スピリットを持つ専門領域の人材として、海外で活躍できる自己研鑽力を獲得することができる。 (5)実習1は、上記の内容の入門・体験的段階と位置付ける。			◎	○		
海外スポーツ交流実習2		実習	2・3・4	1	実習を通して海外現地の方とふれあい、スポーツとのかかわりを知るだけではなく、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。また、そこにかかわる人々との交流により、対異文化行動力を修得できることを目指す。より現地の人々にとけ込むためには、若干の語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部で現地語の学習も行う。実習2は、上記の内容の基礎的段階とする。	(1)海外でのスポーツ交流活動を通じて、自身の新たな可能性を発見できる。 (2)海外においてスポーツをする機会がどのように提供され、それを行う設備の整備、指導員育成、指導法がどのように確立され、運営されているのかを多面的に学ぶことができる。 (3)異言語を用いて現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。 (4)天理スピリットを持つ専門領域の人材として、海外で活躍できる自己研鑽力を獲得することができる。 (5)実習2は、上記の内容の基礎的能力の獲得段階と位置付ける。				◎	○	
海外スポーツ交流実習3		実習	2・3・4	1	実習を通して海外現地の方とふれあい、スポーツとのかかわりを知るだけではなく、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。また、そこにかかわる人々との交流により、対異文化行動力を修得できることを目指す。より現地の人々にとけ込むためには、若干の語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部で現地語の学習も行う。実習3は、上記の内容の応用的段階とする。	(1)海外でのスポーツ交流活動を通じて、自身の新たな可能性を発見できる。 (2)海外においてスポーツをする機会がどのように提供され、それを行う設備の整備、指導員育成、指導法がどのように確立され、運営されているのかを多面的に学ぶことができる。 (3)異言語を用いて現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。 (4)天理スピリットを持つ専門領域の人材として、海外で活躍できる自己研鑽力を獲得することができる。 (5)実習3は、上記の内容の応用的能力の獲得段階と位置付ける。					◎	○

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（体育学）の学位を授与します。 ①体育・スポーツ・武道に関する専門的知識を有し、指導者としてその能力を活かすための資質を身につけている（知識・理解） ②体育・スポーツ・武道を安全かつ効果的に指導・実践するための適切な判断や行動ができる能力を身につけている（思考・判断） ③スポーツや武道を実践・指導するための技能や技術、行動能力を身につけている（技術・行動） ④体育・スポーツ・武道の専門家として、課題を明確にして理論と実践を結びつけた解決能力を身につけている（関心・意欲） ⑤体育・スポーツ・武道の価値や文化を広く伝え、生涯にわたってスポーツライフを実現する態度を身につけている（態度）										
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
海外スポーツ交流実習4	実習	2・3・4	1	実習を通して海外現地の方とふれあい、スポーツとのかかわりを知るだけではなく、日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験する。また、そこにかかわる人々との交流により、対異文化行動力を修得できることを目指す。より現地の人々にとけ込むためには、若干の語学力が求められるため、事前準備だけでなく、研修の一部で現地語の学習も行う。実習4は、上記の内容の発展的段階とする。	(1) 海外でのスポーツ交流活動を通じて、自身の新たな可能性を発見できる。 (2) 海外においてスポーツをする機会がどのように提供され、それを行う設備の整備、指導員育成、指導法がどのように確立され、運営されているのかを多面的に学ぶことができる。 (3) 異言語を用いて現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。 (4) 天理スピリットを持つ専門領域の人材として、海外で活躍できる自己研鑽力を獲得することができる。 (5) 実習4は、上記の内容の発展的能力の獲得段階と位置付ける。					◎	